

令和4年度学校経営計画

東京都立杉並工業高等学校
校長 高野 学

1 目指す学校像

(1) スクールミッション

「豊かな教養を備えた地球環境に配慮する技術者を育てる」を教育目標に、学ぶ、創る、考える未来のスペシャリストの育成を目指し、教科横断型の体験型学習、環境保全に関する知識・技術の修得、資格取得に向けた講習等の教育活動を通して、生涯にわたって学び続ける力を育成します。

(2) スクールポリシー

- ① 知識や技術の基礎・基本を身に付け、自己実現のために活用できる能力を育てる。
- ② 適切なコミュニケーション能力によって他者を理解し、様々な集団の中で協働できる能力を育てる。
- ③ 社会の変化を捉える情報収集能力と、それを社会人としての自己管理に活用できる能力を育てる。

2 中期的な目標とその達成に向けた方策

(1) 中期的な目標

基礎的知識・技術、実践的技能・態度が身に付き、希望する進路を実現できる学校を目指し、広い視野でものごとを考え社会に貢献できる、ものづくりの心を持った人材を育成する。

(2) 達成のための方策

- ① 学力スタンダード、都立専門高校技能スタンダードに基づき、基礎的・基本的な知識・技術を定着させ、進路希望に応じたきめ細かな学習指導を徹底する。
- ② 高度IT社会の工業高校に関する有識者会議の提言に基づき、共通教科と専門教科が連携融合した組織的・効果的な学習指導を行い、力をつけさせ進路選択の巾を広げる。
- ③ 東京都の新たな工業高校改革プランの動静を見極めながら、社会のニーズに対応する工業高校教育を模索する。
- ④ キャリア教育を充実させ、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を身に付けさせる。
- ⑤ 特別活動を充実させ、生徒の自主性や社会性を育成し、帰属意識を醸成する。
- ⑥ 部活動を充実させ、心身の健康・体力の向上および技術技能の向上を目指しながら、思考力・判断力・表現力を磨き、人間力を育成する。
- ⑦ 全ての教育活動において生活指導を徹底し、基本的な生活習慣、ルールやマナー等の規範意識を身に付けさせる。
- ⑧ 保護者をはじめ外部機関と連携して、学校保健活動を充実させ、生徒の健康づくり活動を推進するとともに、生命尊重（自殺防止）や安全の確保に係る指導を徹底する。
- ⑨ 教育相談と「心の触れ合い」を重視し、親身で粘り強い指導を行う。
- ⑩ 地域連携を推進し、本校の特色ある教育を小・中学校、地域に積極的に広報する。
- ⑪ 学校管理運営規定に基づき組織的に学校運営を行い、教職員が一致協力し教育目標の実現を目指す。

3 今年度における取組目標とその達成に向けた具体的方策

(1) 今年度における取組目標

コロナ禍における安全対策を最優先に行いながら、学校行事や部活動を工夫して行い生徒の健全育成を図るとともに、学習支援システムを活用するなど学習の機会を確保し学力向上を目指す。そして、都の工業高校改革を見据えた教育課程およびシラバスの改善を進め、生徒の力を伸ばし希望する進路が実現できる学校を目指す。

(2) 達成に向けた具体的方策

ア 学習指導

- ① グランドデザインに基づいた各教科シラバスを作成し、「AL的手法」「ルーブリックを活用した評価」を行い、指導と評価が一体化した授業を実践する。
- ② PBLを授業に積極的に導入し、生徒の探究する力、学び続ける力を育成する。そして総合的な探究の時間の代替である課題研究を本校の教育活動の集大成として位置付け指導する。
- ③ PBLを進めるため、他校種・企業との連携や外部講師の招聘などを積極的に行う。
- ④ 一人一台端末を有効に活用し、効果的・効率的な授業を展開する。
- ⑤ 杉工寺子屋を組織的に取り組み、補習補講を行い、中学既習事項を含めた基礎的な知識の定着を図る。
- ⑥ 生徒にとって有用な資格・検定を整理し、取得を目指す取組みを推進する。

イ 進路指導

- ① 「進路の手引き」を使い3年間を見通した系統的な進路指導を行う。
- ② 進路調査や模擬試験等を行い、生徒の能力や適性を把握し、一人一人の適性に考慮したきめ細かな進路指導を行う。
- ③ インターンシップを2年生で実施し、職業観を形成させ進路選択に結び付ける。
- ④ 専門教科における実習や教科「人間と社会」体験活動、そして学校行事、部活動等を通じて、自己理解・他者理解を深め、思いやりの心、社会性を育成し、自己実現を目指す。

ウ 生活指導

- ① 登校時やホームルーム、教科指導など、様々な場面で、時間を意識して行動すること、身だしなみや挨拶に関わる指導などを徹底し、礼儀や規律、規範に関わる意識を高める。
- ② 保護者との連携を図り、遅刻防止を含めた基本的な生活習慣の改善に向けた指導を行う。
- ③ 「いじめ防止基本方針」等に基づき、いじめや暴力は絶対にしない、許さない指導を徹底するとともに、学校いじめ対策委員会を定期的に開催し、いじめの未然防止に向けた取組や早期発見のための情報共有の工夫を図る。
- ④ 授業やセーフティ教室等において、ネットリテラシー、情報モラルに関する指導を徹底する。

エ 特別活動・部活動指導

- ① コロナ禍で制限がかかる中、できることを工夫しながら特別活動を実践し、心身の健康、体力の向上を目指す。
- ② 部活動指導方針に基づき、生徒が主体的に取り組み活躍する機会を作り出す。
- ③ 「2020オリンピック・パラリンピック教育レガシー」実施方針に基づき、日本の伝統文化の理解や国際感覚を養う等、国際理解教育の充実を図る。
- ④ 行事や集会等における校歌斉唱、生徒による挨拶活動、地域への貢献や奉仕活動等など、本校の伝統的な取組を一層充実させ、生徒が誇りをもてる学校づくりを推進する。

オ 保健指導

- ① スクールカウンセラーと連携した教育相談の充実、学校医等と連携した健康教育の推進、保健委員会の活動の活性化などを図り、自殺対策に資する教育の推進、発達障害等の特別な支援が必要な生徒の心の健康の増進や学ぶ意欲の向上を図る。
- ② 感染症対策を施し環境整備に努め、清掃活動を徹底し、清潔で明るい学習環境をつくる。
- ③ 特別教育支援コーディネータを中心とした教育相談体制を充実させ、特別な支援を必要とする生徒への支援体制を構築し中途退学者の減少を目指す。

カ 募集・広報活動

- ① HPの運用、外掲示板の活用、地域小学校・中学校との連携など広報活動・募集活動を充実させる。
- ② ものづくりの面白さを子供たちに伝える活動など、地域の小・中学校との連携事業の内容をさらに充実させ、地域社会に貢献し、信頼される学校づくりを推進する。
- ③ 学校案内、ポスター、パワーポイントによる学校紹介をカスタマイズする。

キ 学校経営・組織体制

- ① 学科改編に向けて積極的に先進校の学校視察・授業見学、有識者の招聘を行う。
- ② D Xを進め業務の質を高めるとともに、I C T環境を最大限活用して生徒の学びを保証する。
- ③ 日常の業務を通じて教育公務員としてのあり方を自覚するとともに、研修会を実施し教員相互でミスが起こらない職場風土をつくり、服務事故防止に努める。
- ④ 体罰・暴力行為・暴言等の根絶を図る。体罰に関する認識を教職員・生徒・保護者が共通理解し、体罰はしない、させない、許さない校内風土の醸成を図る。
- ⑤ 管理職は所属職員のライフワークバランスに気を配り、業務内容の見直しを進め、勤務時間の削減を目指す。
- ⑥ 防災体制を整備し、非常時に備えるとともに、関係機関や地域と連携して実践的な防災教育を推進する。また、各種防災訓練を充実させ、生徒の防災意識の向上を図るとともに、自助・共助のための実践的な知識・技能の習得を目指す。
- ⑦ 創立 60 周年行事に向けた準備をスタートさせる。

(3) 重点目標と方策（数値目標）

	項 目	数 値 目 標
学 習 指 導	学校評価アンケート（生徒） 杉工寺子屋は学習サポートに役立っている	8 0 %以上
	平日授業以外学習時間 1 時間以上 （朝・放課後補習補講を含）	1 0 %以上
	資格取得等の指導の充実、 国家資格取得者数	1 0 0 名以上
	資格取得等の指導の充実、 認定資格取得者・検定合格者数	3 0 0 名以上
進 路 指 導	キャリア教育の充実、インターンシップの実施	2 学年で実施
	就職指導の充実、就職希望者内定率	1 0 0 %
	学校評価アンケート 生徒 進路指導満足度	8 0 %以上
	進学希望者の大学・専門学校進学率	9 5 %以上
生 活 指 導 ・ 保 健 指 導	遅刻者数	前年度実績以下
	教育育相談の充実、スクールカウンセラーによる校内研修	2 回以上
	暴力行為、いじめ件数	0 件
	特別な支援を必要とする生徒に関わる会議	年 5 回以上
	中途退学者の数（転学を含まない）	1 0 名以下
部 活 動 指 導	学校評価アンケート 生徒 学校行事満足度	8 0 %以上
	部活動加入率	7 0 %以上
	地域連携活動	地域連携活動 5 部以上 または 5 回以上
募 集 ・ 広 報 活 動	学校説明会、見学会参加者数延べ数	6 0 0 名以上
	H P 更新回数	3 0 0 回以上
	学力選抜応募倍率	1 . 1 倍以上
	推薦選抜応募倍率	1 . 5 倍以上
組 織 校 体 運 営	学校評価アンケート 生徒 本校に入学して良かったと思う	8 0 %以上
	学校評価アンケート 保護者 本校に入学させて良かったと思う	8 0 %以上

